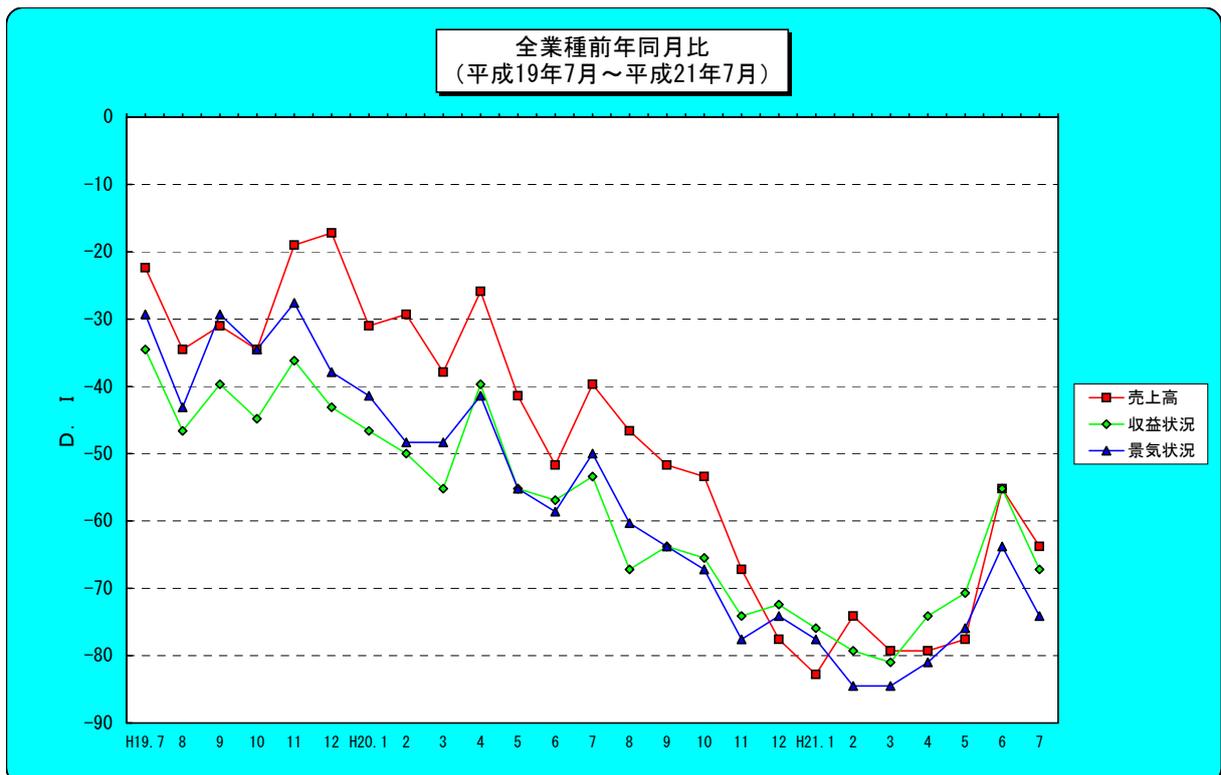


県内の情報連絡員報告

■平成21年7月分

- 7月のDI値は、前月と比べ全9項目中4項目(「売上高」、「収益状況」、「設備操業度」、「業界の景況」)で悪化となり、特に「収益状況」及び「業界の景況」がそれぞれ12.0及び10.3ポイントの大幅減となった。前月は高速道路ETC割引、自動車税制優遇等の施策もあって全体的に改善傾向が見られたが、当月は非製造業を中心に必ずしもその改善が続いていない模様であること等から今後の推移を注視していかなければならないとしている。
- 製造業においては、6項目(「売上高」、「在庫数量」、「販売価格」、「収益状況」、「設備操業度」、「業界の景況」)で悪化が見られ、特に収益状況で12.9ポイントの減少となった。繊維製造関連においては、国内外の需要が大きく減少しており、回復の傾向が見られない模様である。鉄工・機械関連においては、繊維機械が中国向生産で若干上向きとなりつつあるものの、コストダウンの要求が強く、採算性の改善にまで繋がっていない状況である。また、工作・建設機械は低操業の状態が続いており、依然として先行きの見通しがたないとしている。ただ、自動車部品関連においては、自動車税制優遇の効果により多少動きが出てきたところが見られるとのことである。資金繰りについては3.2ポイントの改善を見ており、セーフティネットの有効活用や経費削減に取り組んだ成果によるところが大きいとしている。
- 非製造業においても、4項目(「売上高」、「収益状況」、「資金繰り」、「業界の景況」)で悪化している。長引く雇用問題等による先行き不安等により消費動向は依然低調であり、小売業においては売れ筋が低価格にシフトしていること等により、価格設定に苦慮している一面が窺える。旅館業でも需要は停滞しており、宿泊客数に減少傾向が見られる。これまで一定の効果が見られた高速道路ETC割引については、休日の賑わいに繋がっているものの、平日はその反動等で落ち込みが見られ、総じてポイントが下がる結果となった模様である。
- 天候不順の影響については、梅雨が長引いたことや気温が上がらなかったことにより、各業界で影響が出ている模様である。特に衣料品、家電等の季節商品は需要の減少により、売上を伸ばすことができず苦戦したようであり、また、商店街でもイベントを集客に繋げることができなかったとしている。加えて旅館業では例年に比べ予約状況が思わしくない等、総じて売上や消費のマイナス要因となっている。建設業においても、工事の進捗が思うに任せず停滞する等の影響が見られたとしている。

◇全業種の前年同月比推移 (H19.7~H21.7)



集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	県内の醤油出荷量は、前年同月比でかなりの増加となった。これで2ヶ月連続で前年同月の実績を上回ったが、1～6月の累計においては依然として前年同期を下回っているため、今後の推移に注目していきたい。
	パン・菓子製造業 (菓子)	商品開発など努力はしているものの、売上高の減少が続いている。消費者の生活の厳しさがそのまま反映されていると思う。今は我慢するしかない。
繊維・同製品	織物業 (小松市)	全世界にわたる経済危機の影響から、当地繊維製品の全ての受注が大幅に減少している。当組合員企業においては、減産度合いに下げ止まりが見られるものの、回復の兆しはまったく見えず非常に厳しい状況である。
	ニット製品製造業 (県域)	婦人衣料は百貨店・専門店向けが大失速、頼みのスポーツ衣料もいくらか高機能であっても高価格の商品は敬遠され海外へのシフトが進行している。自動車内装材も特に完成車の輸出不振のあおりを受けて、年初に比べれば生産は回復しているものの、昨対で見ると依然低位に置かれており、更なる発注先の選別と集約化の動きが見られる。
	その他の織物業 (染色加工)	7月度における売上高は、前年比で多少のマイナスとなった。その要因は消費者が景気回復の実感がなく、出費を控えているためと思われる。収益状況に関しても悪化している。今後の見通しとしては好転する見込みは薄く、しばらくはこの状況が続いていくものと思われる。商品が本格的に動き出す秋の動向に注目している。消費者動向としては、夏の商品は「ゆかた」であるが、実際は低価格のものが売れ筋であるため、当業界に影響はない。組合員企業の資金繰りは厳しい状況にあると思われる。
	その他の織物業 (織マークの生産・加工)	今月は昨年比に比べ15%売上の落ち込みとなった。国内消費の落ち込みとともに業界の落ち込みが更に進み、過去にない厳しい状況を迎えている。現時点では、一向に回復兆候がなく、今後業界全体がどこに向かうのかを許さない厳しい状況が続くそうである。
木材・木製品	製材業、木製品製造業 (金沢方面)	7月度は売上に関しては例年並みであった。木材価格は相変わらず低迷が続いている。特に合材関係がひどいが、一部で月が変わると一変するとの情報があるが、何回も不発に終わっているため、今回はどうなるのか。
	製材業、木製品製造業 (能登方面)	価格の安値が続いており、その結果出材も減少となったため、今月5回開催予定の市は3回となった。雨が続けているため、現場で機械を使用できず出材が思うようにいかない。
出版印刷製造業	印刷製造業	売上高と収益状況は先月と変わらず。今後の見通しは現状のまま推移すると思われる。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	7月の県内の生コンクリートの出荷状況は、前年同月比で93.8%となった。先月はいったん好転したものの、今月はマイナス出荷となった。地区状況で見ると、金沢、鶴来・白峰、羽咋・鹿島地区がプラス出荷となったものの、南加賀、七尾、能登地区がマイナスとなった。なお、官公需は117.8%、民需は77.0%の状況であり、民需の少ない地域が大きな出荷減となっている。民需の低調は今後も続くものと思われる。
	砕石製造業	7月の組合取扱い出荷量は、対前年同月比で生コン向けは16.1%増加、アスファルト合材向けはマイナス10.9%、全体出荷量では12.1%増加となった。6～7月と増加に転じているものの、南加賀地区の27.8%の落ち込みを特需がカバーしている形であり、業況の厳しさに変わりはない。
	粘土かわら製造業	売上高は前年同月比で減少傾向が続き、先行きの不透明感が強い。収益状況については、生産調整等により小幅ながら黒字を確保しているが、今後の売上高次第の面がある。資金繰りについては、生産調整やコスト削減により順調に推移している。
	陶磁器・同関連 製品製造業	百貨店の売り上げが前年同月比で減少が続いており、ギフト対応の価格帯の売上の減少が大きく響いている。
鉄鋼・金属	鉄素形材製造業 (鉄鉄物の製造)	今年2月の大底から若干回復の兆しがあるが、依然として操業度は50～60%ダウンとなっており、売上、損益は前月同様低位横ばいの状態である。発注ロットは小さく、また短納期となり対応に苦慮する機会が多い。メインユーザーの工作機械、自動車、建設機械は依然として回復しておらず、本年度は低操業度が続く見通しである。
	鉄素形材製造業 (鉄鉄物の製造・修理)	各指標は前月同様変化は生じていない。報道等により景気は回復予想となっているが、当工業団地各企業においてはその実感はないように思われる。依然として操業度は低下し、従業員の雇用確保のため教育訓練の実施及び外部に参加している状況である。
	非鉄金属・同合金圧延業	前月同様、特に変化は見られない。依然として金箔の需要は低迷しており、特に仏壇、仏具、寺院仏閣等の金箔需要が低迷し厳しい状況下にある。全体の20%を占める工芸品についても、低価格の需要に移ってきている。
	一般機械器具製造業	景気の底打ち感が底のままであり、業況は一向に良くならず悪いままである。収益状況や資金繰りも悪いままである。
一般機器	機械金属、機械器具の 製造	業況に目立った変化は見られない。繊維機械の売上は若干伸びてきており前月と同水準を維持している。しかし、この傾向が続くのかどうかは不透明である。また、受注ロットが小さい、短納期が要求される等採算を悪くする要因が多く、売上の伸びの割には利益に繋がっていないようである。建設機械や工作機械の先行きはまた一向に見えて来ないため、全体としては厳しい状況に変わりはないが臨時休業は継続されたままである。資金繰りについては、運転資金のやりくりにより苦勞しており、一部では経営者の個人資産を投入せざるを得なくなっているとの話を耳にした。しかしながら、比較的余裕のある企業へは金融機関から融資の動きかけが盛んようである。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界等の問題点)
一般機器	プレス、工作機械	受注や売上については、3月以降は今なお低水準が続いている。業界全体の底打ち感に反し、川下企業では今後も厳しい状況が続くと予想される。ただ、売上は5月を底として若干上向きとなりつつある。7月の売上高は前年同月比マイナス69%であったが、前月比はプラス12%となった。収益面では、固定費や外加工費の削減による経費削減により、損益は改善されつつある。雇用に関しては、休業や教育訓練による雇用調整助成金の利用を当面は継続していく予定である。
	機械器具及び其の他 金属製品の製造	7月は先月以上に売上が伸び、現在の仕事量は一部を除き60~80%まで戻ってきた模様。大手メーカー関連設備での受注がほとんどなく厳しい企業があるが、景気対策効果により他は底入れしたのではないと思われる。国内需要は伸びず、中国、韓国等海外向け設備投資関連の受注が伸びているようである。売上高は前月比上昇に転じており、四輪の減産緩和やエコカー増産の影響により受注が6月以上に多くなってきたことが一番大きい。収益状況は、仕入価格に変化がないところに操業度が上がってきたことにより、悪化の比率は減少している。資金繰りについては悪化が継続している。雇用調整助成金申請後の早期入金が見られる。
	繊維機械製造業	組合員の売上について、繊維機械関連の部品加工は対前年比で36%、工作用器機関連は18%であった。今後の見通しについて、繊維機械は8月以降50%強の回復を見込んでいるが、工作用器機の回復は遅れており年内はこのまま厳しい状況が続くのではないかとと思われる。各社ともパート、臨時、派遣従業員を減らして身軽になっているが、生産が大きく落ち込んでから既に7~9ヶ月となっているため、赤字の累計が大きくなっている。そのため、資金繰りについては各社とも2~3回目の借入を行っているが、金融機関の対応は先行きの見通しについての確認と評価について厳しくなっている。
	機械、機械器具の製造 又は加工修理	繊維機械の仕事が徐々に出てきているが、納期が早く協業が出来ない状態で忙しい。一方、工作機械、建設機械の受注がなく、来年も難しい見通しである。繊維機械に特化できないし、また価格ダウン要請もあり、そのバランスの取り方に頭を痛めている。工作機械や建設機械関係はかなりのコストダウンを要求されているし、4月以降引き合いはあるものは皆来年の話であり、ハーフエコノミーというように昨年の半分以上が来年以降の水準であると覚悟している。大手メーカーの建設機械、シリンダーは沈んだままで、週3稼働でも仕事不足の状態である。
その他の製造業	漆器製造業 (能登方面)	売上高、収益状況は前年を下回る状況が続いている。百貨店・小売において売上の減少が続く、今後もこの状況が続くと思われる。消費者動向については、下げ止まりの様子は見られない。資金繰りについては、組合員企業に目立った変化は見られない。
	漆器製造業 (加賀方面)	4~5月にかけた急激な落ち込みは、6~7月に入って落ち着きを取り戻しつつあり、7月は前年並みの出荷額に終わった模様。前年並みとはいえ、数字的には20年来の最低水準であり、依然として厳しい状況に変わりはない。近年は個別事業所での申請が可能な行政の補助メニューが増えてきており、雇用関連と併せて利用することにより危機対応を図る組合員が増えてきている。
	プラスチック製品 製造業	売上高と収益状況は前年同月比で微減となっている。食品業界関係は昨年を上回っているが、工業部品関係が落ち込んでいるためである。資金繰りについては、セーフティネット等の政府系の貸出によりしのいでいる状況でないかと思われる。
卸売業	各種商品卸売業	世界同時不況の影響により一般消費者が萎縮して低価格品で我慢するかもしれないしは買い控えという形で表面化しつつあり、組合員の大半が売上、採算とも悪化しており、今後もこの傾向が強まるものと思われる。資金繰りについては、採算の悪化と不良債権の発生により厳しくなっている。
	繊維品卸売業	世間は選挙一色で業況の厳しさは横に置かれている感がある。
	水産物卸売業	7月分の買受高は、対前年同月比5.7%減と4~6月分の9%減に比べると多少改善されたようだが、依然として下げ止まりの兆しが見えない状況にある。今後も魚食の普及活動に取り組み、少しでも多くの売上に寄与する努力を重ねていく。
	一般機械器具卸売業	7月の売上は、対前年同月比で70%前後の組合員がほとんどである。5月度の住宅着工件数が全国で38%であるから当然である。収益状況は大型の物件がなく売買損益はそこそこであるが、人件費分の売上が確保できず大幅な赤字となっている。資金繰りは大きな物件がないため、少し楽になっている。在庫金額の引き締めや必要以上の仕入をしない等、資金繰りの改善に努めている。
非製造業	百貨店・総合スーパー	売上高は対前年同月比で84.95%であった。部門別で見ると、ファッション89.99%、服飾・貴金属73.18%、生活雑貨84.59%、食品93.6%、飲食97.1%、サービス86.16%であり、売上が上がる気配はない。客数は全業種で1割減となっている。消費動向から安売り合戦へ向かっているが、専門店としてはそれにシフトするのにか既存の売り方を貫くのか思索している模様。ただ、一度安売りすると店のイメージやその後の売り方に影響があるため、実際は耐え忍ぶしかない状況にある。食品、飲食、サービスは今までなんとか昨年ペースを保っていたが、ここに来て急切状態である。この様な状況が続けば、経営者の高齢化により閉める店舗が出てくるのではないかと懸念している。天候不振の影響について、6~7月は長期のバーゲンや安売り合戦のため季節感より価格が占めていたように思われるため、今後の梅雨明け後の夏物の動き残暑がどこまで続くかが消費を左右しそうだ。ただ、総選挙により消費が鈍る可能性があることは否めない。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	依然として深刻な消費者の先行き不安感からくる買い控えのため、値下げで低価格傾向となっている中で売上、利益との下落率は日に日に大きくなっており、併せて梅雨明け宣言の遅れで低温、長雨で夏物商品は軒並み最悪であった。本来、着心地が良くして価値ある商品をタイミング良く適正な価格というのが目標であり、超目玉、超低価格な競争には疑問である。
	水産物小売業	月初めからは入荷が豊富。小降りだが本マグロが入荷し多少賑わう。10日前後は悪天候のため入荷少なし。中旬に入り、異常気象による天候不順等で入荷が少なめであり月末までこの状況が続いている。土用の丑の日のうなぎ等は健闘した感がある。
	米穀類小売業	消費の下げ止まり感があるものの、売上高は前年同月比で15%減少となった。夏場に向かうと食欲減退により毎年売上高も減少となる。梅雨明けの遅れ日照不足により、野菜等の品不足と価格高騰が見られる。資金繰りについては、今月は資金需要がないものの、9月の収穫期にどうなるか心配である。
	機械器具小売業	7月の地域店の伸びは95%となった。エコポイント制度の利用したカラーテレビは台数で前年同月比115%を確保できたが、冷蔵庫80%、ルームエアコン65%と白物家電が冷夏により不調のため猛暑であった昨年を大幅に下回り、全体で前年実績を下回った。一日も早い梅雨明けが望まれるが、夏物商品の回復は期待できない感がある。今後もカラーテレビの地デジ対応への買い換え需要を獲得することが年末に向けての最重要な取り組みとなる。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
小売業	燃料小売業	土日祝日の値引き販売が蔓延しており、正常価格である平日の顧客が減少して収益を圧迫している。また、晴天が少なく節約傾向と相まって販売量は減少している。天候不順により、洗濯需要等も不調となっている。資金繰りについては、賞与支給により若干窮屈になっていると思われる。
	他に分類されない その他の小売業 (土産物)	高速道路ETC休日割引は、当初平日にプラスして土日祝日に観光客が増加したが、6月中旬以降は平日が極めて減少している。8月の選挙が益々観光客の足かせとなっていると思われる。
商店街	近江町商店街	売上については、購入金額の減少が感じられる等不況が影響しているようである。
	尾張町商店街	いつかかと思っていたが、ついに当商店街からも1社の倒産が出た。まさかと感じながら心に深く黒いものが入り込んでくるようだ。それでも前向きに進み、開発することが将来から未来へと続く道へ信ずることなのであろうか。特殊な商売は別として当商店街の各店は厳しい一言に尽きる。もしかして、明日をも知れぬというのが正解かもしれない。売上も利益も減少しているが、人出を減らしてはやっていけない。そしてその人出は年々高齢化している。
	片町商店街	売上高については、昨年は猛暑や中心市街地一斉バーゲンが功を奏して前年同月比で2桁の増となったが、今年の夏のバーゲンは振るわなかった。消費は依然として低価格な商品しか売れていない傾向が強く、収益率は上がっていない。また、長い梅雨の影響で夏物の売れ行きが悪く、雨に見舞われる日が多かったため週末に行われたイベントも集客出来なかった。
サービス業	旅館、ホテル (金沢方面)	宿泊業の供給過剰と需要の低迷が要因となり、今までにない悪い状況が続いている。資金繰りについては、毎月の支払に苦慮している現状である。観光業に対する根本的な支援の姿勢が見受けられない。
	旅館、ホテル (加賀方面)	景気停滞感、冷夏、個人消費の底冷え等により個人消費が厳しい中、高額レジャーの需要は停滞気味にならざるを得ない背景が色濃く残っている。低価格旅館の新規参入等の影響があり、売上、収益状況の厳しさが継続している。来月の需要は、梅雨の長期化や総選挙の影響により思わしくない。高速道路ETC週末1,000円の利用者は増えている状況であるが、温泉旅館の消費需要の喚起には至っていない。資金繰りについては、事業資金の確保が困難であり、非常に厳しい状況であるとの声が聞かれる。 7月の宿泊人員について、温泉地全体では対前年同月比で90.2%と3,721名減少した。前月に比べ、下げ幅は少し収まったものの依然として落ち込みは続いている。また、宿泊単価が低下していることから収益状況も伸びは見込めないであろう。夏の行業シーズンを迎えているが、梅雨明けが長引いたことや天候があまり良くないこともあり、家族旅行による宿泊客の動向が大変鈍いのが現状である。毎夜開催している夏まつりの来訪客は前年より減少している。資金繰りについては厳しいため、低利子の融資制度を拡充する等の経営支援強化策を望む。
	旅館、ホテル (能登方面)	7月の宿泊客数は対前年同月比89%と厳しい状況であり、売上高、収益状況も大変厳しい。天候不順や不景気等のマイナス要因が原因と思われる。ミニ定期観光バスやイベント等の人も低調である。お盆期間中は対前年同月比で110%となっているが、この期間以外は大変厳しい状況である。今年はサッカーの合宿があるため、一息感がある。
	自動車整備業	継続検査実績車両数については、登録車、軽自動車合計台数で前年同月比100.1%と横ばいで推移し、登録車のみでは98.3%、軽自動車で104.2%であった。これらの原因は経済対策の一環であるエコカー購入が若干であるが増加したことや貨物車等が継続審査を控えていることが要因と思われる。一方、新規登録状況については、エコカー導入によりどうにか91.9%とマイナス8.1%と一桁で推移した。なお、登録車、軽自動車の合計は93.5%となっている。今秋にかけて一層増加することに期待したい。
	建設業	钣金工事業
室内装飾工事業		先月同様、業況に好転の兆しはなく厳しい状況が続いている。組合員企業が今一番感じていることは、先行きの見通しが出来ないことに対する不安である。
管工事業		給水装置工事受付件数は、対策年同月比で横ばいの状況であった。また、ガス管受付件数もほぼ横ばいであった。受注環境の悪化の中で、多少回復に向かいつつあるが、一時的なものか長期的なものか見極める必要がある。早期の民需回復に期待したい。
運輸業	一般貨物自動車運送業①	軽油の価格が2円程度下がったが、原油価格がじりじりと上がっていることが気になることである。景気は底を脱したとの報道があるが、依然として厳しい状況が続いている。8月はお盆の帰省やレジャーで高速道路の混雑が予想され、更にお盆休みで稼働日数が少なくなり、経営的には厳しい月となるが、8日間の高速道路通行料金終日50%割引の効果があることに期待したいところである。
	一般貨物自動車運送業②	7月度の売上高は前月比で約35%アップしたが、前年同月比では約23%のマイナスとなった。マイナス値は月を追って縮小されているが、8月は盆休みがあるため例年以上のダウンが懸念される。収益状況は、車両、雇用の過剰と運賃の低下傾向で非常に厳しい状況である。また、8月中旬に8日間トラックも高速道路が日中50%割引が実施されるが余り期待が出来ない。資金繰りについては、制度融資の限度まで活用し、返済条件の緩和等でのいであるが、車両をリースしている場合は分割支払いと違い、変更は出来ず資金繰りに苦しむケースが見られる。